

2011年9月11日

「私のためにも祈って下さい」 ヤコブ 3：1

I 「私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです」：1。多くの者が、軽々しく、自分の思いで、神の御言葉を教える働き人になってはいけません。御言葉の働き人になるためには、神からの召命とふさわしい資質と教会の承認が必要です（I テモテ 3：2～10、テトス 1：5～9）。「だれにでも軽々しく按手をしてはいけません」（I テモテ 5：22）。神の御言葉を教える教師、働き人は、格別きびしいさばきを受けるのです。神の御言葉を教えるという務めには常に自己吟味すべき聖なる責任が課せられていて、その責任を忠実に果たさないならば、格別きびしいさばきを受けます。と同時にこの地上には、弱さと欠けのない完璧な働き人はいません。あのパウロは、こう言っています。「あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました」（I コリント 2：3）。「労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく…このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかる諸教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまづいて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか」（II コリント 11：27～29）。そしてパウロは心からこう頼みます→「兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください」ローマ 15：30。悪魔は、働き人を誘惑し、主のための働きができないようにさせます。I ペテロ 5：8、エペソ 6：11～13。ですから教会の働き人、牧師、その家族、宣教師、その家族は、教会の人々の祈りの支えを必要としています。私が、この33年間、支えられ御言葉を教える働きが続けられているのは、神の支えのおかげ、それと、神が備えられた祈り支えて下さる方々のおかげなのです。それなしには、私は、この大切な重い責任を果たし続けることはできませんでした。これからも、祈り支えて下さい。経験は有益ですが、頼るべきものではありません。頼るべきは、神ご自身です。

II 多くの方が、自己中心の願いや野心で神の御言葉を教える働き人になってはいませんが、聖書に次の御言葉があります。「キリストご自身が…ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです」エペソ 4：1。これからも全世界のそれぞれの教会に、キリストご自身が、ふさわしい人を、宣教師、牧師、教師として立てられるように祈りましょう。また主は、「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主は、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい」ルカ 10：2。働き手は、短時間では育ちません。神学校、聖書学院で御言葉をしっかり学び、卒業後、すぐに整えられるのではなく、やはり、経験、年数、神の御訓練を実践の中で受けつつ一步一步整えられていきます。ですから、神学生の為に祈り支えましょう。神に召され、神学校に入る人がいなければ、将来、無牧の教会が増えます。現在も、あるグループはそうなっています。一人の牧師が、いくつかの教会を兼牧されていますが、それには限界があります。神学校の教師や講師の奉仕の為に祈りください。私は、聖書学院で教えるとき、後輩の学生を神の器として愛して、授業をしています。私は、聖書学院での奉仕を教会の外の奉仕ではなく、教会の大切なわざとして自覚して奉仕しています。なぜなら、急に牧師が倒れ働きができなくなることもあります。その時、各教会が相談し依頼するのは、聖書学院やJEC A なのです。どなたか、来春か1年後でも来て下さる働き人はいないでしょうかと。単立ではなく、J E

CAに加盟していること、聖書学院と良い関係にある事は大きな恵みなのです。私の場合は、ただの知識で終わらないように、HBIの授業の中で、この約37年間、愛の神の許しの中で経験させていただいた弱さ、失敗、苦しみ、喜び、恵みを主にあって愛する学生たちに分かち合うことにしています。質問にも答えています。卒業後に少しでもお役にたてる授業をしたいと願っています。学生たちも卒業生の私たちの為に祈り支えてくれています。また、皆さん、卒業後の神の器たち（日本人教職、宣教師）の為に祈り支えて下さい。経験がないまま、すぐに教会の責任者になり、戸惑わない人はいないと思います。教会員も戸惑います。そこには、働き人と教会員の互いの忍耐と深い愛が必要です。主にあって経験を積む時間、年数も必要です。また、働き人の支えの為に、教職者会やOMFの年会や働き人の支えとなる集まりに教会が喜んで送り出す事が大切です。励まし、教訓、視野の広がりをいただくことができます。それは、教会にも益となり戻っています。教職者会の交わりのない働き人は、孤立し、煮詰まり、働きを続けられなくなることがあります。

Ⅲ 教会の皆さんの祈りの支えがどうしても必要な理由は、働き人も皆、完璧な人間ではなく、肉体、精神、霊的な弱さを持っているからです。神の働き人や奥様や子供たちが心の病となり働きを辞することもあります。この地上では、戦いがあります。しかし、悪魔より強い全能の神に祈り支えて下さる教会員の支え、愛、ご理解は、どんなに大きな力、励ましでしょうか。「みことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさい」ガラ6：6。私たち御言葉の働き人は、毎朝皆さんのために祈ります。皆さんも私たち働き人の為に祈りください。大切な礼拝のメッセージの準備のためにも是非祈って下さい。メッセージは、これまでの歩みと1週間の歩みと祈りと学びと皆さんの祈りとメッセージ中に真剣に聞いて下さる皆さんとの共同のわざの結晶です。「私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう私のためにも祈ってください」エペソ6：19。